

【鈴木】それぞれが、その時の環境をしつかりと自分の形に変えた成果だと思います。練習ができないから終わりではなく「じゃあ、こういう時にこそ、こういうことをしよう」とか「こういうことをしよう」とか、「こういうことをしよう」とか、次の手、次の手というのを、選手もコーチも機転を利かせたのが結果にも繋がったのだと思います。

◇◇常総市の魅力◇◇

【市長】新型コロナウイルスの影響によりイベントが中止になったりと、様々な影響がありました。一方で、テレワークの増加により地方都市への移住が広まったことで、都心から50^{キロ}圏内で1時間以内という常総市の立地が、移住先としていいんじゃないかという声が高まっています。そこで、当市のふるさと大使も務めていただいております。鈴木さんに改めて市の魅力などについて伺いしたいと思います。

【鈴木】中学から東京に出てしまったので、地元の食べ物のおいしさを改めて感じます。中学・高校の時に米不足があったんですが、父親から米を沢山送ってもらって、炊飯器で炊いたときに地元のお米の美味しさを食べることのありがたみを感じました。

また、災害の話になりますが、小学生の時に小貝川が氾濫し、今度鬼怒川で水害が発生しましたが、復興が本当に早いです。みんなが、トラックを出して片づけに行ったり、人への想いというか、知らない人

も助けるというのが、常総市の強さだと感じます。僕が東京に行ってもいろんな人が声をかけてくれますし、普段なかなか話さない人でも会ったら温かく声を掛けてくれたりだとか、人と人との支えあいは強いと感じます。

【市長】私もそう思います。東京などでは隣に誰が住んでいるかを知らないこともあったりしますが、常総市は助け合いだった地域のコミュニティが本当に温かいと感じます。

食べ物の話がありましたが、常総ICが開通して、市ではその周辺開発を手掛けています。45ヘクタールになる農業の6次産業化の拠点を整備するプロジェクトが進行中で、販売の拠点として、道の駅も令和5年の春にオープンする予定ですが、現場はご覧になりましたか。

【鈴木】はい、見ました。いろんな形で人が集まるような場所になってるなと感じています。私も道の駅にはよく寄るんですよ。そこでおいしそうな地元の食べ物とか売ってたら買いますので、そういったものが常総市にできるのは僕は楽しみです。常総市に来たら、お土産を買いに必ず寄ると思います。

【市長】道の駅を拠点として、市内を周遊してもらえそうな仕組みを考えていますので、ふるさと大使の鈴木さんにも、是非宣伝をしていただけるとありがたいです。

【鈴木】はい。よろしくお願ひします。

常総市長

神達岳志



【市長】あけましておめでとうございます。

昨年、新型コロナウイルス感染症により延期となっていた東京オリンピックが開催され、当市では聖火リレーが行われました。コロナ禍での開催となりましたが、感染症対策のためマスクを着用した多くの市民の皆さん、そして関係団体、ボランティアの皆さんにご協力いただき無事終了することができました。改めて皆さんに感謝を申し上げます。

広報常総1月号では、新春対談として当市出身で数々の国際大会で活躍され、アテネオリンピック柔道男子100^キ超級金メダルに輝き、また昨年、全日本柔道男子監督に就任された鈴木桂治さんに、お話を伺ってきたいと思います。

【鈴木】本日はよろしくお願ひします。

【市長】昨年、常総市で開催された聖火リレーにおいて、鈴木さんは常総市区間のアンカーを務められました。改めて感想をお聞かせいただけますか。

【鈴木】まず、聖火ランナーの連絡をもらったときは嬉しかったです。中学から東京に出ているので、聖火ランナーとして走ったことで、自分の生まれ故郷の人達に見てもらえたのも嬉しかったですし、決壊した場所があそこまで整備されていたのも感激しました。いろんな方々の声援があり、本当にうれしかったです。オリンピック代表のコーチを務めていましたので、「力」になりました。

【市長】あの時は、聖火ランナーの皆さんが、

やるべきか悩んだと思います。鈴木さんに何度か連絡をさせていただいたら、すぐに「故郷に恩返しをしたい」と返信をいただいたことを覚えています。

◇◇東京オリンピックについて◇◇

【市長】新型コロナウイルス感染症の影響によりオリンピック史上初めてとなる無観客での開催となるなど、スポーツ界にも大きな影響を与えました。そのような中で、鈴木さんは柔道男子コーチとして、東京オリンピックに参加されて、選手たちが素晴らしい成績を残し、特に100^キ級でウルフ・アロン選手が優勝を決めた後の抱擁は感動を覚えました。改めて当手を振り返ってみてどのように思われていますか。

【鈴木】全日本のコーチを9年間やらせていただいて、オリンピックはリオと東京の2回あり、その間に世界選手権が開催されましたが、そこでもなかなか重量級は結果が出ず、軽量級の選手はだいたい金メダルだったりと、いい成績を取ってききました。この9年間は重量級の苦しさが顕著に出ました。この9年間は重さ、重いクラスの男子100^キ超級でも原沢君も頑張ってくれてくれたので、涙こそ出ませんでした。感無量でした。

【市長】コロナの影響で稽古不足というものがあったかと思いますが、皆さん大活躍してくれましたね。

全日本柔道男子監督

鈴木桂治



◇◇子ども達へのメッセージ◇◇

【市長】常総市の子どもたちは、もちろんですけど、これから柔道をやろう。また、柔道が好きだという子どもたちに向けて、鈴木さんからメッセージをいただければありがたいと思います。

【鈴木】そうですね。まず、いろんなことに挑戦していいと思います。自分も小学生時代はサッカーをやっていましたし、野球やバスケットボールもやっていたり、柔道をやったりと、いろんな挑戦をしました。残ったのが柔道ということだったので、いろんなところに自分の可能性というものを見つけるような行動を起こしていいと思います。

そういったことが、自分の目標だったたり、大きな夢に繋がると思うので、ぜひ、遠慮せずに諦めず、好きだと思ふことはどんどん続ける、やりたいなと思ふたことは、一度挑戦してみてください。

そこから自分の、やりたいことがどんどん絞られてくると思うので、ぜひ、大きく行動して欲しいなと思います。

【市長】ありがとうございます。

子どもたちも、遠足や修学旅行に行けなかったり、大好きな柔道や剣道だったり、部活動もできなくて、いろんな思いをされたのだろうなと感じますが、鈴木さんのメッセージで勇気をもたらったと思いますから、夢を諦めずに子どもたちも頑張ってもらいたいです。先ほど、鈴木さんも仰った通り、ご家族への感謝だったり、先生たちへの感謝という部分がやっぱり大きな力だと思います。

【鈴木】いずれわかることだと思うので、小学生の頃から感謝感謝ということを感じる必要はないと思うんですけどね。いつか、その時が来たらいいなと思いますね。

【市長】鈴木さんの大活躍に、これまでも私たち、常総市民は応援をしてきましたが、いよいよ日本代表の監督ということですから、鈴木桂治監督を市を挙げて、また茨城県を挙げて、日本を挙げて、みんなで応援をしていきたいと思えます。それに、できることは市としても継続して取り組んでいきたいと思えますので、ぜひ市民の皆さんも鈴木監督、また日本柔道を応援していただければありがたいと思えます。鈴木さんにはいろんな形でのご協力をいただいていますので、ぜひ皆さんのご支援をお願いしたいと思います。

今日は鈴木桂治監督を招いての新春対談ということで、本当にありがとうございます。

た。これからの活躍を期待しています。

【鈴木】ありがとうございます。



対談後の様子
(恩師の故・小林先生の写真の前で)

対談の様子は、市公式 YouTube チャンネルに掲載していますので、そちらもご覧ください。



◇◇今後の抱負◇◇

【市長】全日本柔道男子監督になられて、地元としては嬉しい限りです。東京オリンピックが1年遅れたため、2年後にパリオリンピックとなりますが、監督としての抱負をお聞かせいただけますか。

【鈴木】東京オリンピックの盛り上がりが大きく、メダルの数が史上最多ということで、非常にプレッシャーもかかります。あれを超えるにはどういう組織を作ればいいのかと考えると、まずは監督として、自分の経験であつたりとか、今から勉強するようなことを、全日本の中に取り入れていくということ、やっぱり金メダル。柔道は男子女子で7階級あるので、7階級全てで金メダル獲得を目標としています。

これは無茶じゃないかっていう意見もあるんですけど、やっぱり選手が、取りたいと言ってる以上は、監督が取らせるといのが、組織であつて、監督としての責任だと思えます。まずはその目標をブレずに、あとは男女混合団体戦もあるので、男子と女子のチームワークとい



ますか、そういったものも、今後もっともつと深めていって、オリンピックで柔道完全制覇できるように、そういったチームが理想といったら理想ですし、目標として動き出しています。

【市長】前監督の井上康生先輩からは、何かアドバイスはありましたか？

【鈴木】今まで井上前監督が築き上げてきたものをぶっ壊してゼロからっていう思いはありませんので、引き続き相談をしながら磨き上げていくことを考えています。今でも、ほぼ毎日ぐらいですかね、メールのやり取りはあります。こちらが一方的に相談したりとか、井上前監督から確認という意味でメールだけとか、いろいろと協力をお願い

してしますので、1人相撲にならないように、しっかりといろんな意見を聞いてまとめていきたいと思っています。

【市長】選手層もだいぶ育ってきていると感じますが。

【鈴木】そうですね。育ってきています。パリまた更に、その後のロスオリンピックに向けての選手にも、良い選手が沢山いますので、そこをしっかりと強化、育成していくことを、怠らずにやらなければいけないと考えています。この2年間、コロナの影響もあり、オリンピック代表のみの強化になったため、育成が少し遅れてる世代があります。その世代に対するアプローチというのは、どんどんやっていかないとけない

と考えています。

【市長】この道場で稽古している石下柔道出身の後輩たちも全国大会に出場したりと活躍してますしね、頑張ってますよね。

【鈴木】頑張ってますね。まずは日本で力をつけて世界の大会に出るような選手がどんどん出て来て欲しいなと思いますね。

【市長】石下柔道の子どもたちと話をすると鈴木桂治選手、小野卓志選手という、大先輩が世界で活躍されている姿があるので、本当にそこを目指したいとみんな言ってくれています。本当にありがたい限りです。

【鈴木】小学校の時の稽古ってやっぱり、辛い。小林先生の指導も厳しかったですし、辞めたいなと思ったこともたくさんありましたけど、やっぱり続けて我慢してやってきてよかったなと思います。両親のおかげであつたりとか、いろんな人の支えがあつて、どんどん成長できたなと思ってます。



恩師の
故・小林信雄先生